

第二章 リンド夫人

ある日の午後、リンド夫人はマリラのもとを訪ね、アンに会いたいと思います。

リンド夫人が到着すると、アンは庭に出ています。

アンは美しい花々を眺めています。

「スペンサー夫人が言うのよ、あなたがアンを家に置いておきたがっているって」とリンド夫人は言います。

「ええ、あの子はいいい子だし、マシューと私はあの子のことを気に入っているの」とマリラが言います。

「でもあなたたちは子どものことなんてちっとも分かってないじゃない」とリンド夫人は言います。

「学んでいけるわよ」とマリラが言います。

「私は子どもが好きだもの」

すると突然、アンが台所に向け込んで来て、リンド夫人を見ます。

「おや」とリンド夫人がアンを見て言います。

「あんたはとっても痩せっぽちだし、髪の毛は真っ赤。まるでニンジンだ！ それにかわいい顔じゃないね」

アンの顔は赤くなり、彼女は怒っています。

アンはリンド夫人を見て叫びます。

「あんたのことなんて嫌い！ 大っ嫌いよ！ あんたはすごく意地悪だし、太っちょだわ！」マリラが驚いて言います。

「アン！ 自分の部屋に行きなさい！」

アンは2階の自分の部屋にかけ上がり、泣き出します。

リンド夫人は「私は家に帰るわ！ あなたたちの小さな孤児は悪い子だね、あなたたちはあの子で大きな問題を抱えることになるわよ」と言います。

マリラは2階のアンの部屋へ行き、「ああアン、これでリンド夫人はアボンリーのみんなにあなたのことを話してまわるわ」と言います。

「あの人ったらとっても意地悪なんだもの」とアンは泣きながら言います。

「彼女は私が痩せっぽちで醜いと思っているわ、それに私の赤い髪が気に入らないのよ」

「あなたはリンド夫人に『ごめんなさい』って言わなきゃいけないわ」とマリラは言います。

「いやよ、絶対に！」とアンが言います。

マリラはリンド夫人のことについてマシューに話します。

マシューはにっこり笑って「リンド夫人は話す前にちっとも考えないんだよ。アンに腹を立てちゃいけないよ」と言います。

翌朝マシューはアンの部屋へ行き、「リンド夫人のところへ謝りに行っておくれ。彼女は悪い女性ではないんだが、話す前に考えるってことをちっともしないんだ」と言います。

「分かったわ、マシュー」とアンは言います。

「今日私はリンド夫人に謝りに行くわ」

その日の午後、マリラとアンはリンド夫人の家へ行きます。

「リンド夫人、本当にごめんなさい」とアンが言います。

「私は確かに痩せていて、醜いです。そして私の赤い髪についても、あなたは正しいです」

「私もすまないと思っているよ」とリンド夫人はほほ笑んで言います。

「私はね、話す前に考えるってことをまったくしないんだ。でもね、赤毛のことは心配するんじゃないよ、だってさ、大きくなると髪は色が変わることもあるからね」

「ああ、よかった！」とアンは言います。

「ありがとうございます。外へ行ってあなたのお庭で遊んでもいいですか？」

「ああ、もちろんだよ」とリンド夫人は言います。

そして夫人はマリラを見て、「お分かりの通り、私はあの子が気に入ったわ」と言います。

その午後、家への帰り道で、アンは彼女の小さな手をマリラの手の中に入れて言います。

「私は幸せよ、マリラ！ 私の新しい家族と新しいおうちが大好き！」

ある日、マリラが言います。

「アン、私はあなたに新しい帽子を買うわ、それと新しい服を3着こしらえるわよ」

「ありがとうございます」とアンは言います。

「私はかわいい服が好きよ、だって他の女の子たちはそれらを持っているんだもの」

でもアンはその新しい帽子や服が気に入りません。

「どうして新しい服が気に入らないの？」とマリラは尋ねます。

「かわいくないんだもの、でも着られるわよ」とアンが言います。

「それから帽子にお花を付けることができるわね」

日曜日にアンが教会へ行くと、他の女の子たちは花の付いたアンの変な帽子を笑います。

ある日、アンは家に帰って来て、とても興奮しています。

「マリラ、来週大きなパーティーがあるの。行ってもいい？」

「ええ、アン、行ってもいいわよ」とマリラはにっこり笑って言います。

アンはパーティーで素晴らしい時間を過ごし、新しい友達をつくります。

ダイアナ・バリーが今やアンの親友です。

ダイアナは黒髪で茶色の目をしており、かわいらしいのです。

ダイアナはきれいな服が好きです。

ダイアナはアンと同じ年で、川を渡ったところにあるオーチャード・スロープに住んでいます。

アンとダイアナは毎日一緒に遊びます。

二人は庭で遊ぶこともあれば、森の中で遊ぶこともあります。

雨の日には本を読んだり、物語を語ったりします。

二人は絵を描くのも好きです。

寒い冬の日には、よく雪が降ります。

アンとダイアナは窓のそばに腰掛けて、雪が降るのを眺めます。

ダイアナのお母さんは、二人に温かいお茶とビスケットを持ってきてくれます。

二人は一緒にいていつも幸せです。